

第6回「トレンドライン基礎」

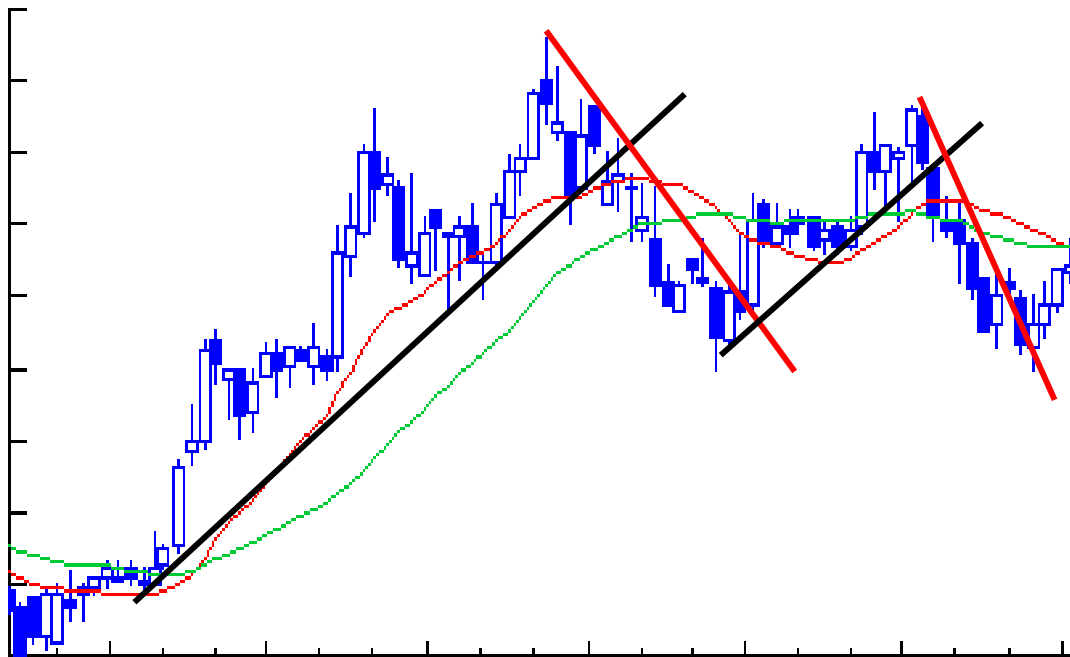
1.トレンドラインはチャート分析の基本

チャート分析の手法は数え切れないほどありますがその中で一番の基本ともいえる物が「トレンドライン」を用いる分析方法です。

トレンドラインとは、読んで字の如く、株価のトレンド（方向）を示す線のことです。どうすればこの線が引けるかという点、上昇トレンドの場合には、安値と安値を結び線を引きます。これを下値支持線といいます。

下降トレンドの場合は、高値と高値を結び線を引きます。これを上値抵抗線といいます。この下値支持線および上値抵抗線が「トレンドライン」です。

下の図の黒い線が「上昇トレンドライン」です。そして赤い線が「下降トレンドライン」です。見てもお解りのようにトレンドラインを突破した後は暫くの間今までとは逆の動きになっている事が解ると思います。

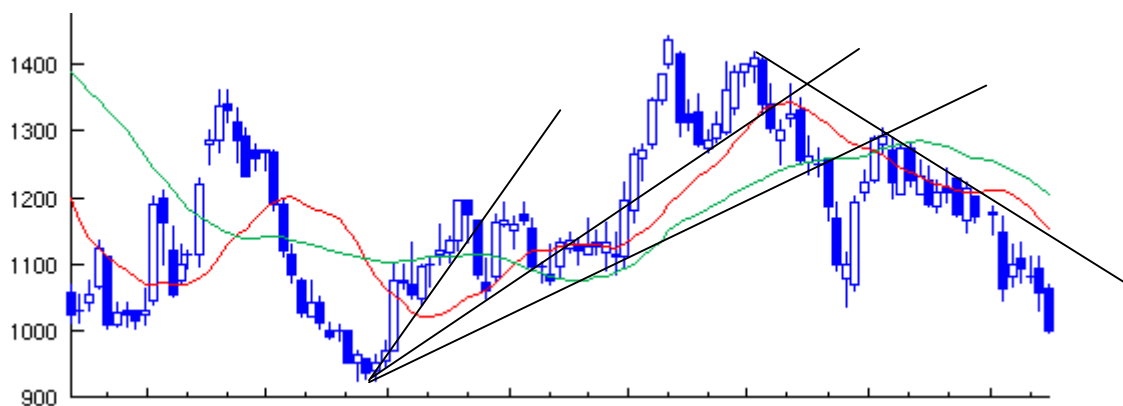


トレンドラインによる分析では、「トレンドラインを突破する」ということが重要なシグナルになります。上昇トレンドの場合なら、株価が下がってもトレンドラインを下に破らないで再度上昇に転じれば「トレンドは継続」。もし、トレンドラインを株価が下に破ると、「これまでの上昇トレンドに変化が出た」という重要なシグナルになります。下降トレンドの場合でもいったん株価が上昇した場合、トレンドラインを上を破れずに再び下落に点じた場合は、「下降トレンドは継続」。トレンドラインを上を破って上昇した場合には、「これまでの下降トレンドに変化が出た」という重要なシグナルになります。

2. 複数のトレンドラインを引いてみる

トレンドラインを破った場合、基本的には買いや売りを考えるべき第1のシグナルになるのですが、先述したように、下値支持線を破ったからといって「下降トレンドに転換した」とすぐに判断していいわけではありません。これは上昇のスピードが鈍ったという変化かもしれませんし、また一時的な「だまし」の可能性もあります。

その判断をする有効な方法の1つは、数本のトレンドラインを引くことです。トレンドラインは3本まで有効とされており上昇の起点となった安値と上昇初期、中期、末期の安値とをそれぞれ引いてみる方法が有効です。



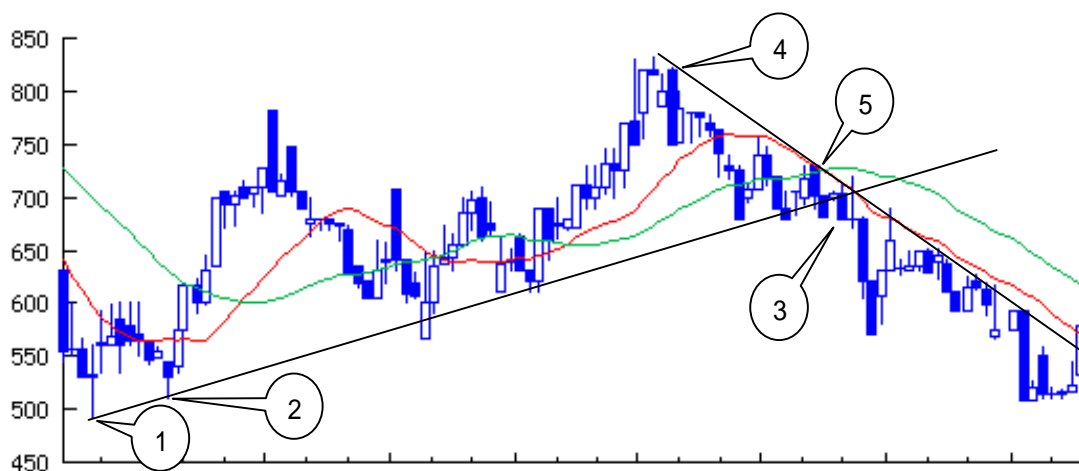
こうしていくつかのトレンドラインを引くと、仮に傾斜の急なラインを下に破ったとしても、傾斜が緩やかなほうのラインを破っていなければ「期間を長く捉えた場合の上昇トレンドは継続中だ」と判断することができます。つまり、どのくらいの投資期間を考えているかによって、重要視するトレンドラインも違ってきて、同時に「シグナル」の捉え方も違ってくるわけです。

又上昇トレンドラインは株価が上昇している間は強力な下値指示線である事は先に述べましたが、一度下回ってしまうと今度は強力な上値抵抗線となり株価の頭を抑える事になります。下降トレンドラインの場合も一旦突破してしまうと、今度は強力な下値支持線に変化します。

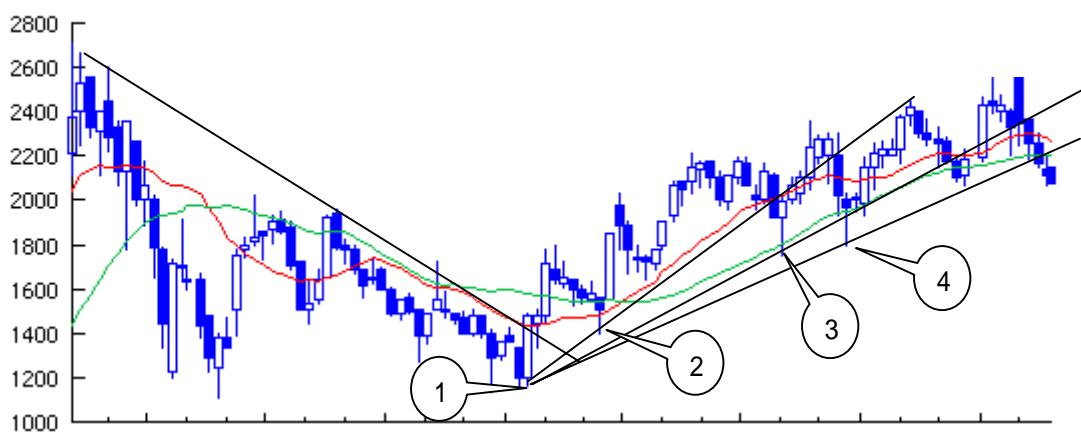
トレンドラインを破ると言うことはそれまでの流れが変化する可能性が高いと言うことです。たとえば大きく下落してきた株が下降トレンドラインを突破したとします。これは買い場が近いことを意味します。その後の動き次第では上昇する確率は高いと考えられますのでその株を暫く追えばいいと言うことになります。後は買いシグナルが出るのを待てば良いのです。

トレンドライン分析をマスターすれば短期投資、長期投資等色々な局面で大いに活用出来る事は間違いないでしょう。シンプル IS ベストのチャート分析方法です。

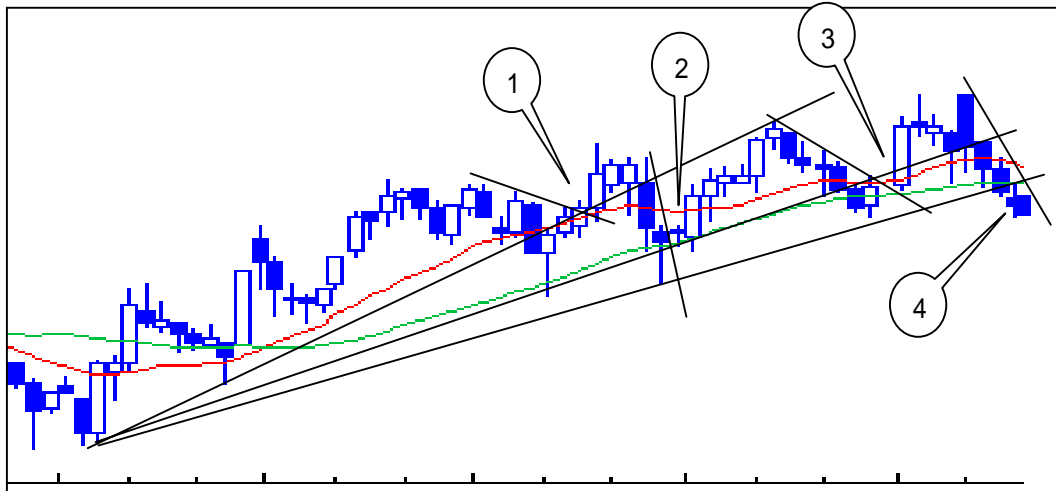
下のチャートをトレンドラインで分析してみましょう。



と の安値を結んだ時点で上昇トレンドラインが引けます。その後 1 年以上に渡ってこの上昇トレンドラインがこの株価を支配している事がお解り頂けると思います。上昇トレンドラインが見事に下値支持線としての機能を発揮しており、 の所で上昇トレンドラインを下回った事から株価は下落に転じております。今度は と の高値を結んで下降トレンドラインが引けます。その後数ヶ月に渡って下降トレンドラインが株価の頭を抑え続けています。そして最終的に株価が下降トレンドラインを突破しトレンド転換のシグナルを発信していると言えるでしょう。



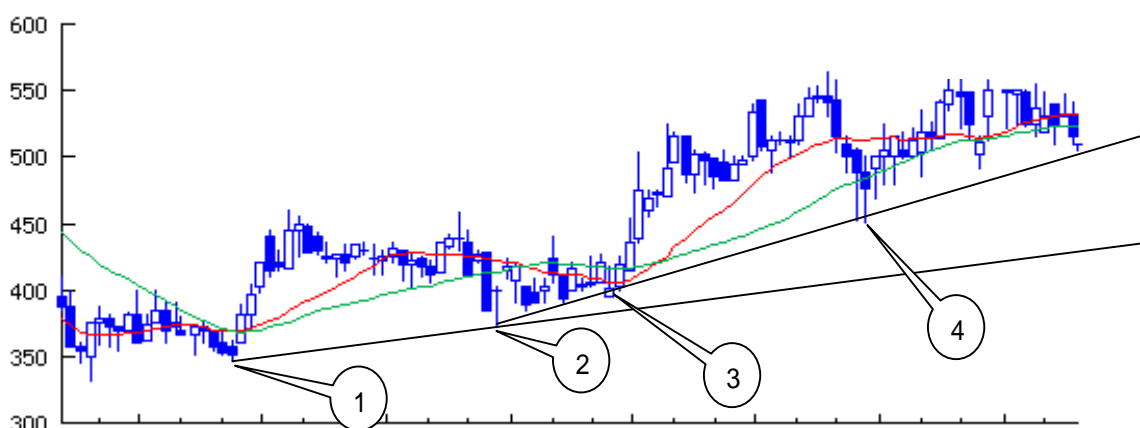
上のチャートをご覧下さい。下降トレンドラインを突破して上昇が始まっています。 の安値と の安値で 1 本目の上昇トレンドラインが引けます。 と で 2 本目のラインが引けます。 と で 3 本目のラインが引けます。最大 3 本まで有効とされており、時々このようなパターンも出現します。このような場合はどの様に見分ければ良いのか？について次のチャートでご説明致します。



先程のチャートを拡大した物です。1番上の1本目の上昇トレンドラインを割った時に出来た下降トレンドラインを上回って来ています。これは上昇トレンドライン継続と判断します。この時に2本目の上昇トレンドラインができます。

の場合も同じです。この時に3本目の上昇トレンドラインができます。

も2本目のトレンドラインを割った時に出来た下降トレンドラインを上回って来ていますのでこれも上昇トレンド継続と判断します。は3本目の上昇トレンドラインを下回り、その時に出来た下降トレンドラインも継続中ですから上昇トレンドの終了と判断します。しかしこの後株価が下降トレンドラインを再度突破すれば下降トレンドは終了します。この様に常に何らかのトレンドに株価は支配されているとお考え下さい。下降トレンド、上昇トレンド、横這いと繰り返しながら株価は形成されて行きます。時々刻々変わるトレンドを判断するのにトレンドラインは適していると言えます。



これは今までとは逆のパターンで1本目よりも2本目の方が角度が急になるパターンです。と の安値を結んで1本目のラインが引けます。その後 と で2本目のラインを引きます。このラインの信頼度が の所で実証されています。この様に臨機応変に色々な安値を結んで線を引いてみて、株価がどの線に反応しているかをチェックする事も重要だと言えるでしょう。

上のチャートの場合は と を結んだ上昇トレンドラインを仮に下回ってもその下の と を結んだ上昇トレンドラインがありますので上昇トレンドは継続と判断します。ただ上昇の角度が緩やかになったという事なのです。

具体的にどの安値又は高値を結べば良いのかについては若干のセンスの様なものも必要になってきます。

そのセンスを身に付けるためにはチャート上により多くのトレンドラインを引いて見る必要があるかも知れません。

実際にトレンドラインを引いて見ると言葉では言い表せない何かが見えて来ると思いますのでぜひ実行してみてください。

第6回終了